

少年

第431号(1) 令和4年2月(如月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 山岸正人

成長するために

2月に咲く花といえは梅。梅の花言葉は忍耐です。その言葉でわかるように、力をじっくり蓄えつつ、その実力（みりよく）がぐんぐんと大きく育っており、花びらとなるのは間近となります。自然界の中では、一足早く、人知れず春を迎える舞台づくりをしているのです。

今年度も残すところ2ヶ月。新型コロナウイルス感染急拡大に伴い、様々な活動が制約されている中ですが、みなさんも今のうちに、この1年間の自分の成長を振り返り、成果と課題をしっかりとめ、さらに力を蓄えるとともに春を迎える準備を整えてほしいと思います。

「振り返る」

私たちは、振り返りをする場合、とかく「結果だけ」を見てしまう。実は、そこには危険性があり、結果だけにとらわれると、次への行動意欲が低下してしまう場合があるという。



いい結果が出たら喜ぶ。また別の機会に、いい結果が出たから喜ぶ。これを繰り返していくと、気がつかないうちに、「いい結果が出そうなきこだけ、行動しよう」というパターンができあがってしまい、そして「結果が出たときにしか喜べない体質」になってしまう。このパターンに、はまると、それまで結果を出してきたやり方、考え方に固執するようになり、かつ、今までの成功パターンでうまくいきそうなことにしか、行動したいという感情が湧かなくなる。なぜなら、結果が出たときしか喜べないので、結果が出そうなきこやりに喜ばないようになってしまう。これは、「自分を挑戦できない人間にしてしまう」入り口である。

それでは、何に焦点をあて、振り返りをすればいいのか。それは「成長」である。目標が達成できなくても、「このこと、あそこは前回よりもよくなった。確実に目標に近づいている」「今回、学びになったことはこれだ」というように意識的に成長している部分に目を向ける。それにより「目標を達成できなかった」という記憶から、「自分は成長している」という記憶に変わることで、「次回はこんな工夫をしてみよう」と次への行動意欲にもつながっていく。

また結果が出たときにも、結果だけではなく、そのプロセスにあった困難や努力もセットで喜ぶ。この喜び方をすると、「結果を出すことができたのは、努力をしたから、つらい思いをしたからだ」という記憶ができあがる。

私たちの脳には何かに取り組むときに、「前回、チャレンジをしたときは、つらい思いをしたから結果を出せた。だから、今回もつらい思い(イコール)努力をしよう」と思うようになり、結果を出したい、だから努力したい、と脳が勝手に努力するように指示を出してくれるようになる。

この他にも成長にフォーカスをするようになると、自分一人の力だけではなく、いろいろな人に助けられているんだと感謝の気持ちをもてるようになるという。

アメリカの大学の研究では、自分にダメ出しをする人よりも感謝の気持ちを感じている人の方が成長意欲は高く、心が折れにくいという結果がある。すなわち、行動が継続する、ということがわかっていく。



たとえ自分が望んだ結果ではなかったとしても「成長したところ」、「できたこと」を意識し、振り返る。そして、その成長に関わってくれている人に感謝する。その積み重ねがいつまでも行動できる、挑戦できる折れない心をつくり上げることになるのである。

出典：星渉『「神モチベーション」やる気次第で人生は重い通り』SBクリエイティブ株式会社

「挑戦」

ips細胞の研究で2012年にノーベル賞を受賞した山中伸弥氏と2021年11月に史上最年少で四冠を達成した藤井聡太棋士の対談をまとめた本が刊行された。題名は「挑戦 常識のブレーキをはずせ」(講談社)。日常の準備、学び方、メンタルの持ち方、AI等について、語り合っている。

「大事なことは『試す』ということ。世の中の成功者は誰よりも『試す』を繰り返してきた。どんどん新しいことに挑戦してみる。だいたい、うまくはいかないが、とにかく挑戦しないと何も始まらない。十回やって九回が失敗でも、残りの一回で成功するかもしれない。失敗しても努力を続ければ十回に九回の失敗が八回に減るかもしれない。失敗しても努力を続けることが大切だ。」
「これからの人生、良いこと、悪いことをたくさん経験することと思う。若いころはどんどん失敗していい。失敗から学び、たくさん経験するからこそ目標が見つかる。(中略)失敗を恐れず挑戦する。やらずに後悔するよりは、やって失敗するほうがいい。失敗することは全然恥ずかしいことじゃない。何も挑戦しないのがいちばんの失敗だ。」

藤井棋士は、山中氏の上記の言葉「失敗を恐れずに挑戦する」が特に心に残っているという。

私たちは、失敗することを恐れたり、苦勞することを面倒に感じたりし、失敗しないためには、どのようにすればいいのかと考えると、結局、行動しないことを選択してしまう。

成長するためには、リスクをとる必要がある。そのリスクには「行動に伴うリスク」と「行動しないリスク」がある。成長するためには、どちらのリスクを選択すればよいかは、明らかだろう。

現在、藤井棋士は史上4人目の五冠に挑戦中だ。そして、北京オリンピックも行われている。リスクを背負って、限界に挑む挑戦者の姿から多くの学びを得たいと思う。



発行番号は昭和61年初号からの通算番号です。

https://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html

少年の非行防止、健全育成に御協力を

令和3年中(1月～12月)の少年非行等の概要について

令和3年中の「県下非行少年等検挙・補導状況」が発表されました。概要は、右の「非行少年等補導状況 前年対比」のとおりです。

『刑法犯少年』(触法少年6人を含む)の検挙・補導人員は、73人で2年中と比較すると、-66人(-47.5%)と減少しています。

成人を含めた全刑法犯検挙人員に占める犯罪少年の割合は、7.7%で、前年比-4.5%です。

『不良行為少年』は、3,673人で、前年比-668人(-15.4%)です。不良行為の中で57.6%を占めるのが、「深夜はいかい」と「喫煙」です。「深夜はいかい」では986人、「喫煙」では1,129人の少年が補導されています。不良行為は非行の入り口。この段階での適切な指導が、少年の将来を大きく左右することは言うまでもありません。

『刑法犯少年』の「年齢別」と「学職別」の数値は次のとおりです。

刑法犯少年年齢別			刑法犯少年学職別		
年齢	人数	割合(%)	学職	人数	割合(%)
13歳以下	6	8.2	小学生	3	4.1
14歳	7	9.6	中学生	20	27.4
15歳	16	21.9	高校生	15	20.5
16歳	8	11.0	有職少年	19	26.0
17歳	13	17.8	無職少年	7	9.6
18歳	9	12.3	その他	9	12.3
19歳	14	19.2	合計	73	
合計	73				

区分	対比	非行少年等補導状況 前年対比		増減	
		令和3年 1～12月中	令和2年 1～12月中	人員	増減率
非行少年等総数		3,784	4,507	-723	-16.0
うち女子		656	745	-89	-11.9
非行少年計		111	166	-55	-33.1
うち女子		34	27	7	25.9
刑法犯少年		73	139	-66	-47.5
うち女子		17	16	1	6.3
犯罪少年		67	128	-61	-47.7
うち女子		17	12	5	41.7
触法少年		6	11	-5	-45.5
うち女子			4	-4	-100.0
特別法犯少年		14	8	6	75.0
うち女子		1		1	-
犯罪少年		14	8	6	75.0
うち女子		1		1	-
触法少年					-
うち女子					-
ぐ犯少年		24	19	5	26.3
うち女子		16	11	5	45.5
不良行為少年		3,673	4,341	-668	-15.4
うち女子		622	718	-96	-13.4

非行少年等とは
「少年」・・・20歳未満の者

1. 非行少年

- ①刑法犯少年(窃盗、暴行、傷害など刑法犯の罪を犯した少年)
 - ア 犯罪少年(14歳以上20歳未満) イ 触法少年(14歳未満)
- ②特別法犯少年(刑法犯以外の罪を犯した少年)
 - ア 犯罪少年(14歳以上20歳未満) イ 触法少年(14歳未満)
- ③ぐ犯少年(将来罪を犯し、または、刑罰法令に触れる行為をするおそれのある少年)



2. 不良行為少年

非行少年には該当しないが、飲酒、喫煙、深夜はいかい、けんかなど、自己または他人の徳性を害する行為をしている少年

『不良行為少年』の「年齢別」と「学職別」の数値は次のとおりです。

不良行為少年年齢別			不良行為少年学職別		
年齢	人数	割合(%)	学職	人数	割合(%)
10歳以下	15	0.4	小学生以下	31	0.8
11歳	11	0.3	中学生	146	4.0
12歳	25	0.7	高校生	1324	36.0
13歳	34	0.9	大学生	133	3.6
14歳	52	1.4	その他学生	111	3.0
15歳	257	7.0	有職少年	1105	30.1
16歳	650	17.7	無職少年	823	22.4
17歳	1059	28.8			
18歳	1013	27.6			
19歳	557	15.2			

年度末がせまり、子供の気分も緩みがちです。
学校・家庭・地域で連携した非行防止の取り組みを!